

ティーチング・ステートメント

所属 北海道科学大学

名前 高橋 淳

作成日 2020年 9月 9日

改定日 2023年 3月 22日

【責任】

薬学科薬学教育学分野に所属し、薬学教育に関する教育・研究活動を行っている。直接学生と関わる教育活動は、講義（薬学生入門、生物学）や実習（早期臨床体験実習、薬学基礎実習Ⅰ、介護福祉体験実習）の担当、卒業研究指導、クラス学生（1～6年生）の修学支援、薬学教育開発委員としての学修相談、実務実習施設担当教員としてのサポートおよび種々記載物の添削指導等である。

【理念】

医療技術の進歩は目覚しく、薬剤師はこれら技術の進歩にあわせて生涯自ら学び続けることが必要である。また、薬剤師は技術・知識面が優れていることは勿論であるが、患者に対して誠実に親身に寄り添い、医療従事者からも信頼される使命感・責任感が伴わなければならない。

教育活動において自ら学び続ける態度を醸成するには、理解すること・知識を得ることの楽しさを学生に実感させる授業を展開する必要があると考える。

また、患者に誠実に接し親身に寄り添えるようになるためには、相手の立場を理解し、相手の思いを汲み取り、状況に相応しいコミュニケーション実践能力を養う必要がある。

学生の態度面を養うためには、教員がまず学生に見本を示す必要があると思い、何事にも責任感をもち、公正、公平、誠実、親身に学生と向き合いたいと考えている。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために、学生が「理解することの楽しさを実感する」、「自ら学ぶ」「相手の立場を理解することを心がける」ことができるよう授業方略を検討している。また、学生の上記態度面を醸成するために、「教員自らルールを守る」、「学生と親身に向き合う」ことを念頭に置いて行動する。

方針1「理解することの楽しさを実感する」（生物学）

- ・基礎科目において習得した知識が、身近な生命現象や病気の成因、医薬品の作用機序を理解する上で役立つことを実感させる。

- ・低学年で習得した知識で薬剤師国家試験問題が解けることを経験させる。

方針2 「自ら学ぶ」 (生物学)

- ・テキストや授業資料を復習すれば正解が見つかる位の難易度の小テストを單元ごとに課し、やる気を失わずに各単元の重要な事柄の理解や知識の定着を図る。

方針3 「相手の立場を理解することを心がける」 (介護福祉体験実習)

- ・自身(介助者)の行為の前に挨拶や言葉がけをし、その行為により相手がどのように感じるかを考えて、安全・安心・安楽な介助を行うことを考えさせる。

方針4 「教員自らルールを守る」

- ・授業の開始時刻・終了時刻を厳守する。
- ・シラバスに則った授業および成績評価をする。
- ・LMSへの講義資料の事前アップロードなど、学生との約束事を守る。

方針5 「学生と親身に向き合う」

- ・質問には丁寧に応じる。
- ・学生の意見は最後まで聞いた上で対応するようにする。

【評価・成果】

・生物学の授業アンケートにおいて「意欲的に取り組んだ」「興味や問題意識を持った」「円滑な授業準備」「能力・資質を身に着ける工夫」等の各項目に、「そう思う」「非常にそう思う」を合わせて83%以上の評価が得られた。

【目標】

1 目標 (短期)

- ・生物学における「理解することの楽しさ」について授業後アンケートを実施し、教員が考える「楽しさ」と学生が感じる認識に相違がないかを確認する。

- ・生物学の小テストに関するフィードバックは、moodleを用いて得点・正解・解説の開示を行った。コロナ関連欠席者への対応や回答期限と授業日程のタイミングからmoodleでの開示となったが、タイミングが合えば授業時に口頭でフィードバックをし、学生個々のmoodleへのアクセスに依存せずに全員への周知を図る。